

令和元年度第2回地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会協議録

1 会議の概要

(1) 開催日時 令和2年2月6日(木) 19:24～20:44

(2) 開催場所 福山ニューキャッスルホテル梅の間

(3) 出席

(委員)

内藤 賢一 委員長、石原 広一 副委員長、

金澤 右 委員、板橋 千代美 委員

(府中市病院機構)

多田 敦彦 理事長、小森 祐一郎 事務局長

(府中市)

小野 申人 市長、唐川 平 健康福祉部長、皿田 敏幸 医療政策課長、

杉原 裕二 医療政策係長、安部 智洋 主任主事

2 会議の内容

唐川健康福祉部長（以下「進行」という。）：失礼いたします。予定の時刻より若干早うございますが、只今から、令和元年度第2回地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を開会いたします。

委員の皆様方におかれましては、御多用の折、また夜間の会議開催にもかかわらず、本評価委員会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、府中市健康福祉部長の唐川と申します。議事に入りますまでの間、私が進行させていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

本日の評価委員会では、事前にお知らせしておりましたとおり、第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価（案）、第2期中期目標期間の終了時の検討、及び次期中期計画に対して御意見をいただくこととしております。円滑な進行を心掛けてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

はじめに、新たに御就任いただきました委員を紹介いたします。

前任の谷委員に代わり、今年度から一般社団法人府中地区医師会会長に就任されました、内藤賢一委員です。内藤委員、よろしく願いいたします。

なお、府中市監査委員の石原広一委員、広島大学病院長の木内良明委員、岡山大学病院長の金澤右委員、府中市健康地域づくり審議会委員の板橋千代美委員におかれましては、前任期より引き続き委員に御就任いただいております。

それでは、委員の皆様の出欠について報告いたします。本日は、木内委員から所用のため欠席される旨連絡がございましたが、その他の皆様には御出席いただいております。

それでは、本日の会議資料の確認をさせていただきます。

本日の会議資料といたしまして、委員の皆様には、事前に資料を送付しておりますが、お持ちいただいておりますでしょうか。

なお、皆様の席に本日の配席をお配りさせていただいております。

資料の確認は以上でございますが、議事進行中でも結構ですので、資料の不足がございましたらお知らせください。

本日の会議については、事前にお知らせしておりましたように、報道関係者に会議の傍聴を許可しております。

なお、報道関係の皆様におかれましては、議事に入りましたら撮影禁止とさせていただきますので、御了承ください。

それでは、開会にあたり、小野市長からごあいさつを申し上げます。

小野市長： どうも皆さんこんばんは。

委員の皆様におかれましては、大変御多用の折、また遅い時間にもかかわりませず、地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、日頃から、府中市の医療行政に対しまして格別なる御理解と御協力を賜っておりますことに対し、この場をお借りいたしまして、厚くお礼を申し上げる次第です。

さて、昨年9月26日、厚生労働省が、再編・統合に関する議論を必要とする全国424の公立・公的病院名を突然公表し、その中に府中市病院機構の2病院も含まれておりました。府中市といたしましても、市や対象病院に事前に何の相談も連絡もなく唐突に公表され、また市民に多大な不安を与えたことなどに対しまして、誠に遺憾であると考えているところです。

両病院を運営する府中市病院機構では、多田理事長の下、病院名の公表以前から病床数の削減や病床機能の転換などに既に取り組んでおり、その結果、今年に入りまして、府中北市民病院については再編・統合の議論の対象から外すという連絡を県を通じて受けたところですが、府中市民にとって必要な府中市民病院については対象としてまだ残っておりますので、この件につきましての委員の皆様への今後の御支援をお願いしたいと思っております。

本日の評価委員会でございますが、内容などにつきましては、後程事務局から説明をさせていただきますが、中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績評価、また来年度から4年間の次期中期計画、主にこの2点について委員の皆様からの御意見を頂戴し、成案を得たいと考えておりますので、御審議の程、どうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は、せっかく皆様にお集まりをいただいておりますので、評価委員会

終了後に意見交換会を予定させていただいております。評価委員会における御意見だけではなく、広く意見交換をさせていただきたいと考えておりますので、最後までのお付き合いをお願いいたしまして、簡単ではございますが、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日の御審議、どうぞよろしくをお願いいたします。

進行： 続きまして、次第のとおり「委員長の選任」に移りたいと存じます。

地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会条例第5条の規定により、委員長及び副委員長の選任は、委員の皆様の互選により定めるとされておりますが、如何いたしましょうか。

石原委員： よろしいでしょうか。委員長は府中地区医師会長でいらっしゃいます、内藤先生にお願いしてはどうかと思っておりますが、いかがでしょうか。

進行： 石原委員から内藤先生をという御意見をいただいておりますが、皆様いかがでしょうか。よろしゅうございますか。

内藤先生、委員長をお引き受けいただけますでしょうか。

内藤委員： はい。

進行： 内藤先生、どうぞよろしくをお願いいたします。内藤委員長には委員長席にお移りいただきまして、その後御挨拶をお願いしたいと思います。

内藤委員長： 皆様、こんばんは。本評価委員会委員長に選任いただきました、府中地区医師会の内藤でございます。よろしくをお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、御多用の中、また遅くからの会議開催にもかかわらず、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

今回の評価委員会は、第2期中期目標期間に見込まれる業務実績の評価に加えて、次期中期計画に対する意見や助言などをとりまとめ、今後4年間における府中市病院機構の方向性を定めていく大事な会議となります。

委員の皆様のお協力をよろしくお願いいたします。

進行： ありがとうございます。

以降の進行につきましては、内藤委員長をお願いいたします。

内藤委員長： それでは、続いて副委員長の選任に移りたいと思っておりますが、如何でしょうか。

(委員から意見なし)

御意見がないようでしたら、委員長としましては、評価委員会への出席も初めてのことでありますので、前任期において副委員長を務められました石原委員に、引き続きお願いしたいと考えておりますが、如何でしょうか。

(委員から異議なし)

御異議がございませんでしたので、石原委員に御就任いただくことといたします。

それでは石原副委員長から、ごあいさつをお願いいたします。

石原副委員長： 石原でございます。引き続き副委員長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、これより議事に入ります。撮影はここまでとさせていただきますので、報道関係の皆さんは席にて傍聴してください。

協議に入る前に、今年度の評価委員会について、事務局から説明をお願いします。

事務局： 失礼いたします。

府中市医療政策課の皿田です。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に先立ちまして、本日の評価委員会の主な内容につきまして、説明させていただきます。

資料1、『地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会について』と題した資料を御覧ください。

2番目の項目で、当評価委員会の所掌事務の主なものを記載しておりますが、このうち、(1)の「市長による中期目標の策定の際に意見を述べる」と、(4)の「当該事業年度における業務の実績などに係る市長による評価の際に意見を述べる」につきましては、8月8日に開催をいたしました第1回の評価委員会において御意見を頂戴しておりますので、今回御意見をいただくテーマといたしましては、下線を引いております(2)、(3)、(5)の項目になります。

詳細につきましては、中程の「3 令和元年度第2回評価委員会の目的・役割」に記載をしております、第2期中期目標期間(平成28年度～令和元年度の4年間)の業務実績(見込)に対する評価(案)に係る意見聴取、市長による評価案に対して御意見をいただくということ、それから第2期中期目標期間の終了時の検討に係る意見聴取、これは中期目標期間終了時における府中市病院機構の業務継続又は組織の存続の必要性などの市長の検討に対して御意見をいただくということ、それから、府中市病院機構が作成をいたしました第3期中期計画の市長による認可に当たって御意見をいただく、というものです。

詳細につきましてはそれぞれの議事の際に説明をさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、お手元の次第に沿って会議を進めます。

次第の(1)、第2期中期目標期間の終了時に見込まれる業務実績に関する評価(案)について協議したいと思います。

府中市病院機構から、第2期中期目標期間中の業務実績について説明を受け、続いて事務局から市の評価(案)について説明を受けたいと思います。

それでは、府中市病院機構から簡潔に説明をお願いします。

多田理事長： 府中市病院機構の多田でございます。

先程小野市長から再編・統合についての報道があったとありましたが、当事者としての気持ちを述べさせていただきたいと思います。

非常に温かいお言葉をいただいたので嬉しく思っている次第であります。報道を聞きまして、なぜ、これだけ小規模で、常勤医も少ない中で頑張っているのに、ああいうふうなリストに挙げられたのかと、不本意で腹立たしい思いでいます。本当に、地域に必要な病院としての使命感、そしてプライドを持って働いているわけですが、そのスタッフの思いを思うと非常に腹立たしいという言葉でいっぱいでございます。

しかし、府中市民病院も府中北市民病院も、急性期医療を手放してリハビリテーションをして慢性期医療に特化するというような気持ちは毛頭ございません。この地域から急性期医療が無くなれば、市民生活そのものが崩壊するのではないかと、いうふうに考えております。ただ、急性期医療と申しましても、大病院に匹敵するようなフルセットの急性期病院ではなくて、この地域の身の丈に合った急性期医療を考えております。具体的には、府中市民病院・府中北市民病院が現在行っている急性期医療、これをしっかり守っていくことに加えて、強化していきたいところはいくつかあります。一つは救急であり、外科の機能であり、消化器、心不全への機能などについては、今よりも強化していかなければというふうに思いますが、そういった身の丈に合った急性期医療を是非守っていきたいというふうに考えています。

府中市民病院も府中北市民病院も、目指す医療は一言で言うと広い意味でのケアミックス医療。具体的に言いますと、急性期医療から回復期、慢性期、在宅医療、健康診断、そして地域の疾病予防、健康増進まで広くカバーするようなケアミックスの医療というものを目指したいというふうに考えています。そして地域の全ての人々が幸せな人生を送ることができるように、府中市の地域包括ケアシステムの中心的な役割を果たし、地域の住民の方々の人生に寄り添い、地域を支えていきたいというふうに考えています。

ただ、再編・統合とか役割分担、連携を否定するものでは決してありません。これまでの体制で良しとするものではなく、今後の地域の人口減少とか、人材不足の現状を考えますと、府中地区内の医療機関、そして福祉施設が連携を深めていって、今後の連携とか役割分担を密接なものに作り上げる必要があるかと思えます。限られた医療資源の中で、地域の住民の方がより質の高い医療を受けることができるようになる、そして医療に対してのアクセスがしやすくなる、できればこの府中地区の中で完結できる医療を少しでも増やしていければというふうに思っております。そして医師を初めとした各職種の人材を多く招へいして育てていく、やりがいをも

って仕事ができるような環境を作っていくというようなことを、これまで以上に真剣に検討する時期に来ているというふうにも思っております。

こういった思いで今回の再編・統合という問題を受け止めて、乗り切っていきたいと、むしろ役割分担をこの地域のために活かしていければというふうにも思っております。よろしく申し上げます。

府中市民病院と府中北市民病院の、平成24年に府中市病院機構が発足してから平成30年度までの業績について振り返りますと、平成24年度から平成27年度まで、第1期中期目標期間において、府中市民病院は地域への信頼回復と言いますか、潰れるかもしれないと言われた病院がちゃんと存続しますよという信頼、それに伴って患者さんに帰ってきていただいた、そして新規の患者さんにも来ていただいて、健診や手術も頑張って増やしていくという時代だったと考えております。

そして、平成28年度には新病院も完成し、地域包括ケア病棟を導入したりということで、経営の方も非常に上向きに伸びていった時代でありました。ただ、平成30年度には外科の常勤医師3名が退職するというショッキングな出来事があったて医業収入はかなり落ち込んだという暗い話題がありました。前年度と比較して年間で2億円弱落ち込みました。一般的には、医師1人で収益が1億円くらいあると言われるので、3億円くらい減少するのではないかと心配していましたが、内科を初め他の診療科が頑張って何とか2億円くらいに収めたとも言えますが、かなり大きなダメージでした。令和元年度の見込みについては、整形外科の医師が着任しまして7月から整形外科手術が再開したということで、前半はちょっと経営が低調でありましたが、昨年度同様くらいに持ち直してきているという状況にあります。

収支につきましては医業費用が非常に掛かっておりまして、旧病院のJA府中総合病院時代に投資が少なかったこともあって、建物とか機器の整備にかなりお金が要った、そして今回の中期目標期間につきましては新病院の整備にお金が掛かったこともありまして、単病院での黒字には達していないという状況でございます。

一方府中北市民病院につきましては、平成25年くらいをピークに収益が減少するという状態にありましたが、最近では地域包括ケア病床の導入とかりハビリテーションをしっかりとしていくこと、また、訪問診療を件数を伸ばしていくというようなことで上向いています。

両病院の純損益、赤字額であります。府中市民病院は横ばい辺りでありまして、府中北市民病院は赤字額が少しずつ改善してきているというような状況でございます。

以上で私の方からの説明を終わらせていただきます。

内藤委員長： 小森事務局長。

小森事務局長： はい。法人事務局長の小森でございます。先程の理事長の説明に加

えて、数値的なところを確認していきたいと思います。

本日の資料、資料2の22ページなんですけれども、第2期中期目標期間中の評価委員会及び府中市長の評価を振り返ってみますと、初年度平成28年度がB、平成29年度がA、平成30年度がCと、こういう評価をいただいているところです。評価の根拠となった具体的な数字については、24ページに目標に対する達成状況をまとめております。項目のところを見ていただきますと、一番上が経常収支比率ということで、端的に言うと赤字なのか黒字なのかということなんですけれども、第2期中期目標期間については、前半2年間は赤字決算になるだろう、ただ、平成30年度と最終年度は黒字決算を目指すという目標を立てておりました。

平成28年度は目標96.6%に対して実績がそれを上回る98.9%ということで、Bという評価をいただいたと思います。平成29年度ですけれども、目標99.1%に対して実績は100.8%ということで、1年早く黒字決算にすることができたということで評価をいただいたところです。平成30年度につきましては目標100.2%に対して99.5%ということで、黒字決算を目標にしていましてけれども赤字決算になりました。これについて理事長が触れましたけれども、外科常勤医師がゼロになる、そういうところが大きく経営成績に影響したと。今年度最終年度ですけれども、黒字決算を目標にしていますが、目標に対する決算見込みは、4月に整形外科常勤医師が来られて10数年ぶりに整形外科手術を再開していると、7月には整形外科手術に関わる麻酔科、さらに救急科を標榜できる常勤医師が来られたことによって、7月以降本格的な整形外科手術が始められています。ところが、そこだけでは当初の目標を達成できるまで医業収益が目標に追い付いていないというところがありますので、最終年度も赤字決算という見込みになっております。

簡単ですが以上で説明を終わります。

内藤委員長： ありがとうございます。

第2期中期目標期間の終了時に見込まれる府中市病院機構の業務実績などに対する質疑や御意見などについては、府中市の評価について説明いただいた後に、一括して頂戴したいと考えておりますので、続いて事務局から市の評価（案）について説明してください。

事務局： はい。それでは、資料3『地方独立行政法人府中市病院機構 第2期中期目標期間の業務実績に関する評価（案）』を御覧ください。

会議時間の都合上、主な点のみの説明をさせていただきますので、御了承ください。

1枚めくっていただきまして、『はじめに』は割愛させていただきますので、次の1ページ、『第2期中期目標期間の業務実績（見込）等に関する評価』の、まず、【総

合的な評定】ですが、ここでは全体的な評価をしています。

第2期中期目標期間（4年間）の業務実績につきましては、概ね順調に中期計画に定める取組を推進しているものと評価するが、府中市民病院の常勤医師の減少などもあり、期間後半の経営状況については非常に厳しい状況が続いていることから、これまで以上の収入の確保や支出の削減に向けた具体的な改善策などに取り組む必要があること、また、職員の接遇向上及び病院の診療に係る情報などの発信に積極的に取り組むこと、としております。

ページ中程、【事項ごとの評価】ですが、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する取組については、休日及び夜間の救急患者の搬入、婦人科及び小児科診療の維持など、両病院は地域に必要な医療の提供に努めるなどしていると評価していますが、以下の点について指摘を行うとしまして、両病院における地域包括ケア病床への転換、府中市民病院による無医地区等への巡回診療などについては高く評価するが、近年の自然災害が頻発している状況に鑑み、日頃からの災害への備えが重要で、これまで以上に主体的に災害医療に取り組まれない、としております。

1枚めくっていただきまして、上から5行目後半からですが、医師を初めとした医療人材の確保に積極的に努めたことにより、整形外科手術の再開及び二次救急体制の強化を実現したことに加え、婦人科の常勤医師を招へいし、懸案であった婦人科検診の維持・充実を図ったこと、それから看護職員の新規採用に苦勞する中、職員の創意工夫により多くの採用予定者を確保したことも評価したいとしておりますが、府中市民病院の外科常勤医師が不在になったままであるため、その医師確保に最大限努力するとともに、新たな医師確保策についても積極的に取り組んでいくことが必要である、としております。

また、その下ですが、府中北市民病院において、地域の医療・介護・福祉関係者と協力して、「人と人との絆」「健康長寿」「活躍できる場」を重視した地域づくりに向けた活動については高く評価するとしており、この取組については広島県においても評価、注目されているとしております。

一方で、接遇などに対する苦情などが市にも多く寄せられていることから、患者満足度の向上に向けた職員の接遇改善や市民への積極的な情報発信に取り組むことが必要であるとしております。

それから次ページ、1行目ですが、平成29年度に経常収支比率が100%を超えたことは高く評価するが、翌年度には府中市民病院の外科常勤医師不在などもあって再び財務内容が悪化し、期間最終年度も厳しい経営状況が見込まれていることについては、市としても強い危機感を抱いており、今後は病床利用率の回復による入院収益の増加等の収入確保などにこれまで以上に取り組み、経営基盤の強化によ

る財務内容の改善を実現されたい、としております。

最後にとしまして、2段落目の2行目ですが、府中市民病院での病児保育事業の実施など、市の主要施策の一つでもある子育て支援を初めとした市の施策に協力いただいていることについては感謝をし、評価をするとしておりますが、しかしながら、医療機器などの整備については、中期計画中の予定額を大きく超えており、計画的な整備・更新などに取り組むべきであるとしております。

甚だ簡単ではありますが、市の評価案についての説明は以上です。

なお、この評価のもととなりました内容につきましては、次の資料、資料4『説明資料（府中市の見込評価案について）』に詳細を記載いたしております。時間の都合上、資料についての説明は割愛させていただきますが、御不明な点などは、この資料4を参考にしていただければと思います。

どうぞよろしく願いいたします。

内藤委員長： ありがとうございます。では、第2期中期目標期間の業務実績（見込）に関する評価等について、御意見をいただきたいと思っております。

金澤委員： 一番大きかったのは恐らく、外科常勤医師3名が退職されたということなんですけれども、医局派遣の先生が引き揚げられたということなんでしょうか。

多田理事長： そうです。

金澤委員： 派遣の見通しは。非常勤の見通しはどうか。

多田理事長： 派遣は今のところございません。非常勤は週1回、尾道総合病院におられる、もともと府中市民病院に勤務されていた先生に来ていただいているという状況です。

内藤委員長： 外科医の招へいに関しては、府中市民病院の命運を握っているというところがあるかと思っております。是非目処を立てていただくというか、難しいとは思いますが、最大限の力を注いでいただければと思います。住民サービスという面においても、外科医師の不在はデメリットになると思っております。力を注いでいただきたいと思っております。

板橋委員： 資料を見ていますと接遇という言葉がたくさん出ておまして、苦情がたくさんあったというのが気になるのですが、どのような苦情があったのでしょうか。

事務局： 多くあるのは、看護師にこういうことを言われたとか、診療で先生からかなりきついことを言われたとか、予約していたのに1時間か2時間待たされた、これでは予約の意味がないではないかとか、主に接遇関係です。最近出てきているのが、休日当番医の内科の日に府中市民病院に行ったけれども、子どもさんを診てもらえなかったということでした。

板橋委員： 接遇の研修をされるということを書いてあるんですが、どのような研修

をされるのでしょうか。

小森事務局長： 接遇委員会という委員会がありまして、メインは看護師なんですけれども、定期的に、外部の講師を呼ぶこともありますし内部で議論することもありますし、毎回テーマを決めて研修会をする。さらに接遇委員会で、笑顔で接しましょうとか標語を月替わりで出したりやっています。

苦情ばかりでなく、病棟の看護師に良くしてもらった、本当にありがとうございましたという患者様の声も箱に入っていたりします。そうは言っても、改善すべきところを御指摘いただければ、その部分を病院として取り組むべきことだと思います。

板橋委員： この病院に行きたい、他所じゃなくてここが良いという方を増やさないと。実は私の母が先生の言葉に傷ついて、上下町の隣町の病院へ何年も通いました。年を重ねて車を運転できなくなったから、ここが良いよと説得して府中北市民病院に帰ったんです。接遇によってお客さんを逃がしてしまうということが大きいんだなということを実感しています。先生の言葉がきつかったら、看護師さんが後でこそっとフォローとかしていただければよかったですけれども、それが無かったと、強く何度も言うんです、忘れないということがあるので。その辺りの実地体験で、人の話の聞き方であったり言葉の掛け方であったり、練習していくことも大切かなと感じています。職員の方が幸せでないとなかなか幸せな対応はできないので、職員の働き方とか心の持ち方を幸せにしてあげる工夫があるのかなということも感じています。幸せ感を持って暮らせる人を増やしていくと、患者さんへの対応も違うのではないかと感じています。

多田理事長： ありがとうございます。

確かに、自分がやりがいを持って楽しく仕事をしているとやはりいい言葉が出るし、働かされ感でやっているときつい言葉も出ることもあると思います。できるだけ職員のいろんな思いとかアイデアとかを汲み上げるような仕組みは作ろう作ろうとしていますし、良いことをいろいろと言ってくれたりとか、こういうことをやりたいとかいうことで実現できていることもあるし、そういったアイデアを汲み上げて実現させてあげたいなというふうにも私自身も思って頑張っているところで

板橋委員： 職員の皆さんの協力を得て、いかに良い病院にしていくかというのを相談していくのも方法じゃないかなと。こうしなさいだけではなくて、あったらいいのかなというふうにも思います。

内藤委員長： 大事な点だと思います。ドクターがちょっときついことを言った後に看護師さんがフォローしてくれると、ずいぶん違うと思うんです。私事ですが、私がちょっと強いことを言った後に看護師さんがこそこそと向こうに行って、「先生

がこういうふうに言っちゃったんだってね。」とか、そういう感じでフォローしてくれる。そういうことを含めて、全ての人が苦情ばかりでない、患者さんの受け取り方が一人一人違いますので、同じことを言っても悪いように取られてしまうこともあるかと思いますが、愛される病院になっただけということ、接遇についてはこれからも力を入れてください。

石原副委員長： 3ページの下に、医療機器の整備について予定額を超えているというように書いてありまして、医療機器ですから額は割と大きいのだろうと思うんですけども、事情がおありなんでしょうか。

小森事務局長： 事情は二つあるんですけども、一つは府中市民病院側、今年度の話ですけども、整形外科の手術を再開するということになりますと、手術室はもともと建築時に造ってあったんですけども、中の機器が全く無い空っぽの状態だったので、新たに整備する必要がある。整形外科手術の再開に向けての投資が結構大きかった、それは第2期中期計画の策定時点で予想できていないところでした。あとは府中北市民病院の関係なんですけれども、第2期中期計画の策定段階で病院の将来像をどう描く、将来への投資となるので、その辺りが法人として見切れていなかったというところもありまして、大きな投資は控えるという計画になっておりましたが、府中北市民病院の先生方や職員がいろいろな取組をされる中で、府中北市民病院の将来像がだんだん見えてきまして、医療機能については今の状態、病床を持った病院として、これからも上下地域に必要なだろうと。施設的には4階の空き病床をサービス付き高齢者向け住宅に変えたりというところで、将来像が府中北市民病院については見えてきたということもありましたので、長年投資してこなかった電子カルテ化とかMRIの更新ですとか、そういう大きな投資をするという決断をしましたので、その辺りが当初計画に入っていなかった投資ということで、計画以上の投資をするという結果になりました。

石原副委員長： 府中北市民病院については業績がある程度落ち着いているというか、形ができてきているというような段階でしょうか。

小森事務局長： そのとおりで、府中北市民病院については、あの地域で、これだけの診療科で、これだけの医療機能を持った病院として、将来も機能していくという位置付けでいける状態のところまで取り組んでいけたと思っています。今後は上下地域での地域包括ケアシステムの実践に入っていますけれども、中心的な推進役として機能していくのではないかとというふうに思っています。

石原副委員長： 府中北市民病院も府中市民病院と同じように、先生がいらっしやらなくなって業績が下がった時期があったと思いますが、今のお話ですと形ができていくというはすごく良いと思います。これから府中市民病院の形を作っていくのでしょうか。

多田理事長： そのとおりで、ただ、まだ府中市民病院は試行錯誤があるかと思えます。手術ができる整形外科は一つの柱になったと思えますし、救急もレベルアップできる素地ができてきていると思えます。ただ外科の常勤医がいないということであるとか、消化器などが手薄であるとか、穴がかなりあるかと思えますが、一つずつ埋めながら理想の形に近づくように頑張っていきたいと思えます。

金澤委員： 医療機器を計画的に整備更新ができれば良いのですけれども、国の方針が変わったりだとか、新しい先生が赴任するにあたりこれこれを揃えることが条件、とどうしてもなってしまう。地域の病院がすごく振り回されていて、私が実際に見たある病院の例なんですけれども、その病院長がたまたま岡山大学出身で私も月に一回くらい、地元大学から支援が無くなった事情もあって、岡山大学医局から1年間くらい行っていました。その病院には大変立派な血管撮影の部屋が、循環器用の心臓の部屋があって、驚くべきことにその装置を入れてから1回しか使われたことがない。それはなぜかという、東京のある私立医大の病院にその市長が頼みに行って、医師を派遣しますよ、その代わり血管撮影の部屋を用意してくださいと言われたんですけども、派遣された先生がここは気に食わないと言って辞めてしまって、後任も派遣してくれない。これは極端な例ですけども、医者に振り回される部分もあるし国の医療制度が変わることで病院が振り回されるということもあると思えます。

待遇の問題を聞いていますと、看護師さんがカバーしてくれるということも大事なんですけれども、非常勤の医師はその病院に対する思い入れが正直言ってあまり無いので、自分は与えられた仕事を一日いくらでやっていますというようなマインドで患者さんに接せられることが多いと思えます。そうするとどうしても自分が優先してしまって、患者さんやご家族のことよりも、5時までなんで早く帰りたいとか、もともと子どもを見る約束じゃなかったでしょみたいな、そういうことが起こり得ると思うんです。だからそういう面では地域の病院は苦勞されているし、大学の側からすると専門医制度の問題なんかで派遣できなくなってきていて、地域に迷惑を掛けているなと思うんですけれども、国全体がそういう方向に行っている。多田先生や事務局長がそういうところで苦勞されているというのは、赤字・黒字は別にして、私なりに理解できるなとお聞きしました。

内藤委員長： 確かに来てやっているという感じの医師もいると思えますし、そこに行ったら私が力を出して良くしてあげようという気持ちの先生もおられると思えますので、そういう先生に来ていただけるように祈るしかないかなと。とにかく来ていただかないといけない。

金澤委員： 府中市出身あるいは府中市周辺出身の先生が戻って来て定着して下さるというのが、一番地域に愛情を注いでくれるパターンかなという気がします。そ

ういう意味で、市長さんからお聞きすると、そういう学生さんに奨学金を出したりされているので、対策は十分練られているかなと思います。

内藤委員長： 先程病児保育という言葉が出ましたが、府中市民病院に併設の保育所が。

小森事務局長： 2階に院内保育所と、その中に病児保育を行うスペースがあります。

内藤委員長： 一般の住民の方も利用できるのでしょうか。

小森事務局長： 法人が直接運営する認可保育所ですので、地域枠として最大3人受け入れます。実際に、病院の職員でない地域の方の子どもさんも通所されています。

内藤委員長： 病児保育はどこもして欲しいというニーズはあると思うんですけども、なかなかしていただけないというのが実際かと思います。そういうことが可能であれば住民サービスに繋がりますし、病院のイメージアップにもなっていくのかなという気もします。府中市の魅力を上げるためにも。マンパワーの問題はあろうかと思いますが。

小森事務局長： 保育所自体は運営していますが、病児保育については府中市の補助金を受けて運営しています。直営ではかなり経費が掛かってしまいますので、府中市から補助金を受けて病児保育を実施できているということでございます。

内藤委員長： もう少し拡張をお願いできればと思います。検討していただければと思います。

訪問診療はかなり負担が掛かると思うんですけども、府中市民病院では実数としてどのくらい。

多田理事長： 10人くらいです。府中北市民病院はもうちょっと多いかなと思います。

内藤委員長： 訪問診療はかなりニーズがあると思うので、府中市の開業医の先生もだんだんと高齢化していて、訪問診療に手が回らないとか止めたいという先生が出てくるかもしれないし、力を入れていってくればいいのかなど。施設も増えてきていますし、サービス付き高齢者向け住宅などいろんな施設でドクターに来て欲しいというところがあると思います。負担にならない範囲で、また競合し過ぎない範囲でやっていただければいいのかなど。

多田理事長： ニーズが結構ありますし、私もぽつぽつと行かせていただいているのですが、診ている患者さんが通院が難しくなって、自宅に行ってみると坂道があって車に乗り込むのも難しいような状況でした。訪問すると外来で診るよりも良い顔をされて自宅生活を楽しんでおられるようで、やっけてよかったなと思うことも多いです。訪問診療は続けていきたいというふうに思います。

内藤委員長： ありがとうございます。貴重な御意見をいただいたと思います。

府中市におかれては、これらの御意見を踏まえて、第2期中期目標期間の業務実

績（見込）評価のとりまとめを行っていただき、最終的な評価結果については、改めて各委員にお示しいただきますようお願いいたします。

また、後程御審議いただきます、第3期中期計画にも関係することかと思いますが、府中市病院機構におかれては、いただきました意見を、是非、今後、策定される年度計画の具体的な取組やその数値目標に反映していただきたいと思っております。

内藤委員長： それでは、次第の(2)、第2期中期目標期間の終了時の検討についての協議に移ります。事務局から説明をお願いします。

事務局： それでは、資料5『地方独立行政法人府中市病院機構の第2期中期目標期間の終了時の検討について（案）』を御覧ください。

資料の一番下に地方独立行政法人法第30条を記載いたしております。その条文中に「設立団体の長は（以下、市長と読み替えてください。）、中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に関する評価を行ったときは、この評価が先ほどの評価になります。が、中期目標の期間の終了時までには、当該地方独立行政法人の業務の継続又は組織の存続の必要性その他その業務及び組織の全般にわたる検討を行い、その結果に基づき、業務の廃止若しくは移管又は組織の廃止その他の所要の措置を講ずるものとする。」とありまして、第2項としまして、「設立団体の長は、前項の規定による検討を行うに当たっては、評価委員会の意見を聴かなければならない。」となっております。

法の規定による検討の結果といたしましては、資料中程、「2 検討の結果」に記載しておりますが、3行目、「概論としては、概ね順調に中期計画に定める取組を推進しているものと評価するものの、病院経営については厳しい状況が続いている。これらのことから、医療機能確保の一環としての医師確保を含めた経営改善策、加えてより積極的な情報発信策などを通じて、市民から選ばれる病院となることを期待し、先般、第3期中期目標として法人に対し指示したところである。この指示に対する適切な対応を今後期待し、法の規定に基づく、業務の廃止若しくは移管又は組織の廃止等の措置は講じないものとする。」といたしております。この市における検討結果に対しまして、御意見をいただけましたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

内藤委員長： ありがとうございます。

この件について、市としては、法の規定に基づく府中市病院機構による業務の廃止、若しくは移管又は組織の廃止等の措置は講じないということでしたが、このことについて、御意見はございますか。

（委員から意見なし）

内藤委員長： ございませんか。御意見が無いようですので、この件については市の案のとおりとさせていただきます。

内藤委員長： 続いて、(3)第3期中期計画の認可について、協議を進めます。第3期中期計画について説明をお願いします。

多田理事長： 概要といたしますか、基本的な考え方を説明させていただきます。

府中市民病院、府中北市民病院が目指す医療は、広い意味でのケアミックスの医療でありまして、急性期から回復期、慢性期、在宅医療、健康診断、そして地域の疾病予防と健康増進というふうなところをカバーして行きたいというふうに考えております。その中で少し足りないと思っていて、力を入れていきたいと思うのがまずは救急。救急と麻酔の専門医を招へいすることができましたので、その指導の下に救急の体制も整えていきたいというふうに思います。それから外科医につきましても、常勤医師の招へいについても考えていきたいと思っておりますし、消化器とか循環器についても、今は消化器については非常勤の先生方の支援を受けながらということでありまして、心臓につきましても地域の循環器専門医のアドバイスをいろいろいただきながらということ、なんとかやっていますが、できるだけ自前のといいますか常勤医師を招へいしていけたらと考えております。

また、内藤先生からも御指摘がありましたように、在宅医療についても訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーションを行っております。ニーズは、すごく高く地域の先生方の高齢化もあって、そこの穴をなんとか埋めていくのが当院だというふうに思っておりますので、充実させていきたいというふうに思っております。

健診もマンパワーの不足ということもあって、申し込んでもずいぶん先にしか予約が取れないとかそういう状況で、住民の方々には健診についてはだいぶ御迷惑を掛けておりますけれども、院内の体制を変えながら健診の方に力を入れるような形を作っていければというふうに思っております。

地域の疾病予防とか健康増進については、婦人科医師が、各年代の女性の健康増進ということを地域で頑張っていきたいというふうなビジョンを持っておられて、そこがずいぶん進むのではないかと思います。これまでも肺炎予防などについては地域活動をやっておりましたけれど、別の疾患、例えば認知症だとか骨粗しょう症だとか、いろんな疾患について地域の多職種の御協力を得ながらできればいいと考えております。

私からの説明は以上でございます。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、第3期中期計画について、委員の皆様から御意見をいただきたいと思っております。

金澤委員： 他の医療機関との役割分担は、地域医療を支える上で当然していかなければいけないと思うんですけれども、府中市民病院は公的病院で府中市には民間病院もあるわけで、そこら辺と特に外科的診療の役割分担とかそういう話はある程度

できているのでしょうか。

多田理事長： まだそこが今後の大きな課題だというふうに思っています。外科疾患について、地域の民間病院がどういう疾患に対応しどういう治療ができるのかということを、勉強会で私は大体理解しているつもりなんですけれども、府中市民病院はこういう疾患だったら診られるよというようなことを知らせていくということとか、個々の病院に医師を大学から派遣してもらうのではなく府中地区に派遣していただくというような形で民間病院に、週に一、二回は府中市民病院で外来とか入院患者を診たり、そこから手術が必要な方は民間病院で手術をするというような、そういった形をまずは作っていければと構想はしていますが、まだ具体的などころまでは至っていません。

石原副委員長： 民間の病院と公立の病院が連携するというか、動きを合わせて仕事をするというのは、地域医療連携推進法人ですか、ああいう恰好は最近流行っているのでしょうか。

多田理事長： 全国的に増えてきているという状況です。単に紹介し合うような連携よりももう一步踏み込んで、ただ、合併よりはお互い独立の経営として、時には人事交流があったりだとか、全国でもいろいろとされていますし、広島県内でも北部の三次中央病院と庄原赤十字病院、西城市民病院、三次地区医療センターといったところが、こじんまりとした形での連携。三次中央病院から庄原赤十字病院へ専門的な医師が、庄原赤十字病院から一般医師が西城市民病院へ、そうすると西城市民病院から訪問診療とかそういったものに回っていくとか、そういう玉突き式の人事交流があり、当地域でも参考になるような形を作っているのではないかと思います。全国でも愛知県では、大学病院が主体でかなり巨大な地域医療連携推進法人ができています。大学病院が旗振り役などころも全国にはあるようです。

石原副委員長： 地方独立行政法人ができるまでは、JA府中総合病院と府中北市民病院が別々だったわけですがけれども、地方独立行政法人ができたことで2つの病院が役割を分担されて動かれていると思うんですけれども、やはりそういうことが必要なんだろう、別々に何かするのではなくてお互い話しながらやるというか。

金澤委員： 地域医療だけでなく日本の医療の方向性としては、病院が連携していくというのが基本的な方針になってくると思います。やはり一つ一つの病院だけで経営とか地域を支えるとかいうのは、人口減少もあります、当然無理なことなので、国もそういうことを見据えながら地域医療連携推進法人の制度を作ったんだと思うんですけれども、国の計画よりも進んでいない部分もあると思います。なぜかという、今まで各病院がある程度体力を維持できていたということがあろうと思うんですけれども、こここのころ病院の体力がすごく落ちてきているので、今後地域医療連携推進法人を作っていくという動きが加速されるだろうし、その中ではお互い

に病院の財政状態を明らかにしないといけないという部分があるので、ハードルもありますけれども、多田先生から御説明があったように広島県北部では地域医療連携推進法人を作って好循環になっているので、今後の一つの方向性として府中地域も考えられるのが良いのかなと私自身は思います。

石原副委員長： 全国的に増えているのですか。

金澤委員： 再編・統合を議論する病院のリストに上げられたのが今回は公的病院だったんですけれども、民間病院についてもリストアップがされると言われていて、当然そうすると公的病院と民間病院の連携を促進すると、そうやって地域医療をきちっと守るといような方向性になるのかなという気がします。大学から医師を派遣するにしても、個別単独病院へとすると数が大変なので、地域医療連携推進法人に一名外科医を派遣しますといような形でやった方が、派遣する側としてはやりやすいのかなと。

石原副委員長： 派遣していただくにしても優先順位が高くなるということですか。

金澤委員： 規模感が大きくなるので、効率的には良くなると思います。

内藤委員長： いろいろ考えておられると思うんですが、具体的にどうなっていくかというのは今後検討が必要なのかなと思います。

他にございませんでしょうか。

板橋委員： 府中北市民病院のリハビリテーションが、通所と訪問がすごく充実してきて、私整体をしていますがお客さんがそれをすごく喜んでいらっしゃいます。病院に入院している期間があって退院した時にすごく不安になったと。何年かしてリハビリテーションが始まって心強いと喜んで、訪問リハビリテーションが心の支えになっているというのがあるので、リハビリテーションは心まで支えてくれると感じたので、もっともっと充実してくれるといいなということを感じています。

府中市民病院もあるんですか。

多田理事長： 私が診させていただいている患者さんも、何人か訪問リハビリテーションを受けておられます。家に来て会話をするのが一つの楽しみになっていて、担当の理学療法士が良い男なので患者さんも非常に喜んでいました。

板橋委員： ケアミックス医療ということを知りましたが良いと思います。

多田理事長： 昔から、急性期病棟と回復期・リハビリ病棟があれば、ケアミックス病院と呼ばれることがありましたが、もっと院外での活動も含めた良い言葉が無いのでケアミックスという言葉を使っていますけれども、地域活動まで含めた病院という意味で使っています。

板橋委員： 充実してくれればいいなということをすごく感じました。

内藤委員長： 多田先生が言われましたように、消化器を充実させたいと。年を取った方が府中市の場合かなり増えてくるので、肺炎とか心不全、それから骨折の人が

増えてくると思います。是非その辺りも充実させていただきたいと思います。バリバリの循環器の専門の先生でなくても、なんとか勉強して、呼吸器専門だから循環器はわかりませんではなくて、呼吸器専門といっても循環器も診られますというような医者にキャリアアップ、専門医とか考えると他所のことをするなんてというような考えもあるかと思えますけれども、もう少し広い範囲をカバーできる医者を育てていただければと思います。バリバリの専門医を目指さなくともある程度のことのできる、そういうことも大事なのかなと思います。

多田理事長： 府中市の奨学金のドクターも数年すると、初期研修を終えて大きい病院に行って、その次くらいに戻ってきて何年か、2年くらい働いたら都市部に行ってまた戻ってきてというような、何回か往復しながらいずれは当地に居ついていたければというふうな、その過程の中で専門だけでなく幅広く学び、また福祉とかリハビリテーションなり、患者の生活背景まで見られるような医者になってもらいたいなど、今後若い人の教育にも携わるようになっていきますけれども、そういった視点もお教えできればいいなというふうに。我々も勉強しないといけないし、でも当院では必要に迫られているんな広いところを勉強しないといけないというところもあるんですけれども、自分たちも勉強だしそういうところを若い人にも伝えて行きたいというふうに思っています。

内藤委員長： 健診のことも言われていましたけれども、なかなか内視鏡健診が府中市民病院ではまだできていないと。

多田理事長： 内視鏡健診は始まっています。上部消化器の内視鏡ができるドクターが何人もいます。

内藤委員長： 健診も住民サービスといいますか、若い人に対する必要な機能だと思っています。是非充実させていただきたいと思います。

内藤委員長： 他に御意見ございませんでしょうか。

ありがとうございました。

市におかれては、本日の御意見を踏まえたくうえで、中期計画の認可を行っていただきますようお願いいたします。また、府中市病院機構におかれても、第3期の病院運営などにしっかりと反映していただきますようお願いいたします。

それではこの辺りで、第3期中期計画に関する協議・意見交換を終わりたいと思います。

以上で、本日の議事は終了とします。委員の皆様、御協力ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しします。

進行： 内藤委員長、ありがとうございました。また、委員の皆様におかれましても本日は熱心に御議論いただき、誠にありがとうございました。

最後に石原副委員長から、閉会にあたってのごあいさつをいただければと思いま

す。石原副委員長お願いいたします。

石原副委員長： 第2回の評価委員会ですけれども、病院機構の運営には非常に多くの御苦勞があると思います。全国的に高齢化であるとか人口減少であるとか、患者側もそうですけれども医療を提供される側も限られているという中で、難しい運営をなさっていただいていると思います。

府中市に入院施設が無くなるというのは、さすがに市民にとっては非常に不幸なこととなりますので、是非今後とも病院機構の運営についてよろしくお願ひしたいと思ひます。引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

進行： ありがとうございます。

これを持ちまして、令和元年度第2回地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を閉会させていただきます。

なお、来年度は令和元年度の業務実績評価に加え、第2期中期目標期間の実績の評価があり、評価委員会を開催し、皆様の御意見を伺う予定としております。会議につきましては、改めて文書にてお知らせいたしますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上